



社団 法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025
<http://www.artepia.or.jp>

小林敬生《蘇生の刻 一緑の星一》

1990(平成2)年 木口木版・紙 85.6×80.0cm (北海道立帯広美術館蔵)

ところどころに段のある球状の世界の中に、おびただしい数の鳥や魚や虫、樹木などが密集している。それは、沙漠のようにも、海底のようにも、あるいは違う星の光景のようにも見える。現実には同じ空間に居合わせることのない生物たちが、画面の中でひしめき合い、生きている。

生命の豊饒、あるいは終局の予感。過剰な生命の存在は、襲来するバッタの大群のように、何か終末的なイメージがつきまとう。作者40代半ばでの作品であり、「蘇生の刻」シリーズの内の1点。

作者の小林敬生は1944(昭和19)年、島根県松江市生まれ。広島県や滋賀県大津市の自然豊かな

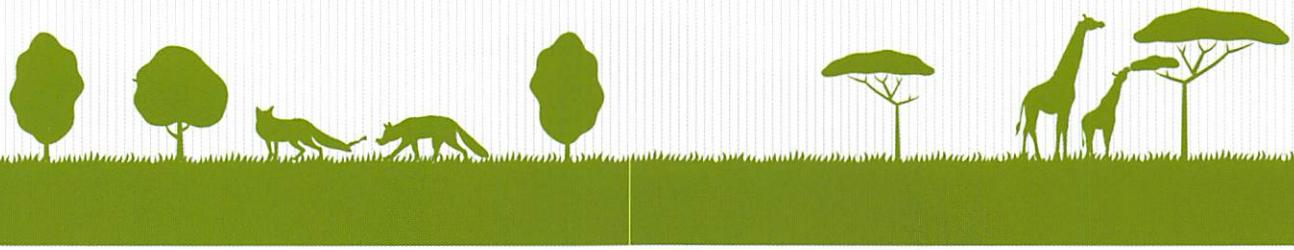
場所で少年時代を過ごし、京都のインターナショナルデザイン研究所で木版画などを学ぶ。1975(昭和50)年、日和崎尊夫の《KALPA X》に触発され、独学で木口木版の制作を開始。通常の板目木版ではなく木を輪切りにした面を使う木口木版は、銅版画のように精巧で鋭い線の表現が可能である。

国内の主要な版画展で受賞を重ね、1997(平成9)年には多摩美術大学の教授に就任。通常小品とならざるを得ない木口木版を組み合わせて刷ることにより、大画面の作品を生み出している。

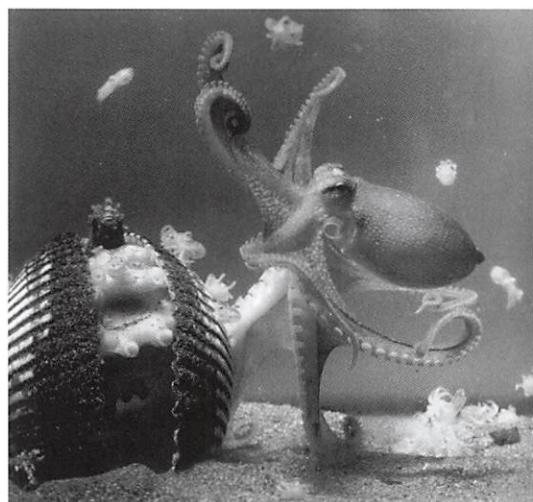
(北海道立帯広美術館学芸員 薦部容子)

地球どうぶつ写真展

◆岩合徳光◆岩合光昭◆いのちのバトン



北海道立釧路芸術館 学芸員 福地大輔



岩合徳光 『イイダコの孵化』 1950年代

ランスの動物写真家として独立しました。その後は写真集やカメラ雑誌などを通じて、国内外の野生動物の

釧路に生まれた岩合徳光（1915—2007）は日本大学商学部を中退後、大連日日新聞のカメラマンとなり、1942年に中国大陸へ渡ります。戦後は毎日新聞社の力

により、独学で生態写真の撮影技術を編み出します。自身の写真集『カメラ動物誌』が1959年に刊行される

生态を捉えた作品の発表をおこない、日本の動物写真家の草分けとして活躍。また、早くも昭和30年代後半には釧路湿原周辺のタンチョウの継続的な撮影も始めています。

動物写真の開拓者 岩合徳光

道立釧路芸術館では開館以来写真作品の収集、展示を続け、優れた作家の紹介に努めきました。今夏、釧路ゆかりの写真家であり、動物写真の第一線で活躍を続けた岩合徳光、光昭親子の展覧会を開催します。

1951年に「毎日グラフ」誌の連載のために動物園の取材を担当したのがきっかけで動物写真に強く惹かれる

メラマンとして、同社の新聞やグラフ雑誌を担当し、著名人のルポや社会世相を切り取る写真を撮影しました。



岩合徳光 『タンチョウ 北海道阿寒町』 1962年

岩合徳光を父に1950年に東京で生まれた岩合光昭は、法政大学在学中の20歳の誕生日に、ガラパゴス諸島へ父の撮影に同行し、自然の神秘に魅了されて動物写真家の道を歩むことを決心しました。

大自然を凝縮する まなざし 岩合光昭

岩合光昭は、父の撮影に同行し、自然の神秘に魅了されて動物写真家の道を歩むことを決心しました。

写真家としてデビューした

1970～80年代には地域、生物種を絞ったシリーズ作品

の制作に挑みました。世界中の海鳥を追い、またアフリカ、オーストラリアに長期滞在し

てその地の自然界、生態系の実相をとらえています。三十代の時期から作品は国内外で高く評価され、1980年に

木村伊兵衛賞を受賞。86年には日本の二大写真賞の一つで、優れた若手写真家に贈られる

木村伊兵衛賞を受賞。86年には世界的な自然科学雑誌



岩合光昭《狩りへの誘い タンザニア セレンゲティ国立公園》1982-84年



岩合光昭《ザトウクジラ アメリカ ハワイ州マウイ島沖》1989年

ク」の表紙写真の撮影者とし

て、日本人では初めて選ばれました。

また、1970年代から制作を続けている「ねこ」を被

写体としたユーモラスで個性的な表情とポーズの作品で知られる一方、現在にいたるまで世界各地の野生動物を撮影した作品を発表。動物写真の第一人者として活動を続けています。

いのちのバトン 親子二代の写真世界

は世界的な自然科学雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」の表紙写真の撮影者として、日本人では初めて選ばれました。

動物写真、山岳写真といつ

が独自の視覚表現を求めることで、芸術性を確立する過程であります。日本の写真史において、野生動物の撮影技

術や表現手法を試行錯誤しな

がら確立し、動物写真が単なる記録を超えて鑑賞対象であることを社会に認知させたのが岩合徳光です。また、撮影機材や技術についての知識を広げる役割を担つたことで、動物写真を志す写真家の裾野を

広げ、水準を引き上げることにも貢献しました。

同時に、岩合徳光の活動した昭和30～50年代は、全

国的に自然破壊が

進んだ時期であり、

撮影された野生動

物は生息環境を追

われるものたちの姿でもありました。

その結果、作品が

おのずから環境保

護のメッセージを

担うことも運命付けられていました。

たといえます。

一方、岩合光昭が活動を始

めた時は父と異なり、すでに

世界中の希少動物のカラー

映像が世に流通する状況に

ありました。そのため、彼は

単に動物の生態を安定した構

図で捉えたものばかりではない、新しい表現に挑むことになります。作者によると、そ

れは撮影する側の動物観、自

然観、人間観、社会観が反映

されたものであり、「美のイメージによる動物の映像的定着」

を目標すものであります。

本展では動物写真において

その表現手法を確立し、発展

させた二人のたどった道のり

を紹介します。自然とそれを

みつめる自己の関係について、

親子二代がそれぞれ真摯な問

いかけを続けて生まれた、豊

かな表現の世界にご期待くだ

さい。



岩合光昭《シロクマ カナダ マニトバ州》2002年

◆ 岩合徳光 ◆ 岩合光昭 ◆
地球どうぶつ写真展

いのちのバトン

7月7日(土)～9月5日(水)
北海道立釧路芸術館

近代美術館

大原美術館展

モネ、ルノワール、モディリアーニから草間彌生まで

5月19日(土)～7月8日(日)



アメデオ・モディリアーニ
(ジャンヌ・エビュテルヌの肖像)
1919年(前期6月17日までの展示)

大原美術館といえば、美術ファンにとって度はないでしょう、「美術の聖地」といっても言い過ぎではないでしょう。そう、「教科書でみたことがある」その名画を詣でるように、各地から「巡礼」に訪

だ總一郎の時代以後も、時代を映しながら、コレクションは豊かに成長していきます。

中核の絵画部門では、西欧と日本の近代絵画はもちろん、戦後アメリカ美術から現代に至る作品が次々に収集され、そのほとんどは同時代の優れた前衛的作品なのです。現在も、大原家別邸の有隣荘での現代作家の展覧会企画や、児島虎次郎のアトリエを制作の場として開放するなど、「生きて成長していく」美術館として、同時代をみづめ続けています。その主要作品80点を拝借し、初めて海峡を渡り北海道でコレクション展を開催します。美術史をひもとくように、名画の数々をご覧ください。

れる人々で今も賑わいをみせる美術館です。岡山県倉敷市の中観地区にある大原美術館は、日本最初の西洋美術館として1930(昭和5)年創設。倉敷絹織(クラシ)を創始した大原孫三郎が地元の画家・児島虎次郎に収集作品の選定を託し、コレクションの礎が築かれ、その志を継いだ總一郎の時代以後も、時代を映しながら、コレ

三岸好太郎美術館

特別展 「猫」が気になる。

9月8日(土)～10月21日(日)



三岸好太郎《猫》1931年
北海道立三岸好太郎美術館蔵

当館所蔵の三岸好太郎作品の中で、常に《飛ぶ蝶》や《オーケストラ》、《のんびり貝》といった代表作に次いで高い人気を博している作品があります。

それが1931(昭和6)年、独立美術協会の秋季展に出品された《猫》(油彩 91.1×61.0cm)です。『猫』といっても、頭部は猫ながら、身体の方は明らかに人間で、洋服を着てブーツをはいて立っています。腕組みをし、なかなか堂々とした態度です。おとぎの世界の擬人化された猫でしょうか。それとも演劇の登場キャラクターでしょうか。

今年度の当館特別展では、この三岸の『猫』のやこの画家の特質を再発見します。

旭川美術館

開館30周年記念

型絵染 人間国宝 芹沢銈介展

→布に寄りそえ、色と文様がうたいだす。|
4月17日(火)～5月27日(日)

芹沢銈介(1895～1984)は、柳宗悦が主導した民芸運動にふれる中で、沖縄の伝統的な染色工芸「紅型」と出会い、型染による表現を追求していきました。

1956(昭和31)年には「型絵染」の分野で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されたほか、1976年にはフランスからの強い働きかけによってパリのグラン・パレで個展が開催されるなど、国内外で高い評価を受ける日本の代表的な染色工芸家です。その作品には、自然、人、道具、文字などから創出された文様があしらわれ、洗練された感覚による形態と色彩そして斬新な構成で、多くの人々を魅了してやみません。本展は、静岡市立芹沢銈介美術館ならびに柏市が所蔵する、着物、屏風、暖簾など代表的な優品約110点により、芹沢銈介の魅力を紹介する、北海道では初めての本格的な展覧会です。



芹沢銈介《鯉泳ぐ文着物》1964年
静岡市立芹沢銈介美術館蔵

函館美術館

鷗亭の眼・鷗亭のこころ
書と陶と画と～響き合う美の世界～

4月7日(土)～5月24日(木)

現代書の巨匠・金子鷗亭(1906～2001)は、優れた書作を生み出す一方

で、幅広い分野の芸術を愛好し、とりわけ東洋工芸を中心に、日本や西洋の美術にも関心を持って、それらの美術品を蒐集しながら、自らの創造へのインスピレーションの源ともしています。

本展では、彼が愛蔵した中国・朝鮮の古陶磁や日本近現代の画家・彫刻家の秀作など、魅力的な優品、名品の数々を、鷗亭



金子鷗亭《自作句 宋壺 春ロンドン》1993年



《黒地搔落壺》宋代

の多彩な作品とあわせて展示します。美を求めてたがいに通じ合う、書と美術の深遠な響き合いをご鑑賞ください。

の多彩な作品とあわせて展示します。美を求めてたがいに通じ合う、書と美術の深遠な響き合いをご鑑賞ください。

棟方志功展 版に込めた思い

6月29日(金)～8月29日(水)

1903(明治36)年に青森に生まれた棟方志功は、画家を目指して上京し、その後、版画制作に専心していきました。1936(昭和11)年には『大和し美し』によつて柳宗悦ら民芸運動の指導者の目にとまり、その後は宗教家や文学者との交友を深めながら、その作品世界を深化させていきます。さらに戦後になると数多くの海外展に出品を重ね、日本を代表する美術家として、世界にその名をどうかせました。

志功は自らの木版画を「板画」、すなわち板の上になした絵画と称し、独自の世界を築いていました。



棟方志功
『流離抄板画欄』より『獅子窟の柵』
1953年

き上げました。この展覧会では、棟方芸術の真骨頂ともいえる板画作品の全貌を、生涯にわたる大作によってたどります。戦後日本美術界の鬼才・棟方志功が、板の中に込めた数々の思いを、この機会に存分にご覧ください。

立体力

仏像から人形、ファイギュアまで

6月2日(土)～7月8日(日)

古来、像(かたち)には作り手の、あるいは受け手のさまざまな思いが込められてきました。神仏を顕した像には、人々の祈りがそこに立ち現れます。私たちの日常により密接な人形には、親や子など親近者に対する慈しみが



円空《觀音菩薩像》
長万部町教育委員会蔵
撮影:杉浦秀昭

本郷新記念札幌彫刻美術館

となりのひと

6月2日(土)～8月26日(日)



佐竹真紀《暮らしあと》2009年

重ねられます。現代社会においては、広く人々の想像する極限の姿形がキャラクターやファイギュアとなって叶い、その理想が指の先に至るまで細部にわたって具現化します。本展では、そういった人々の求めるものが像(かたち)となって表された彫刻や立体造形に着目し、それらに託された思いの深みやその多様な展開を展観するものです。

古くは、北海道にゆかりある江戸時代前期の円空や木喰による仏像から紹介します。そして、荻原守衛、中原悌二郎、戸張孤雁ら近代の幕開けと同時に出現した黎明期の彫刻家のうちが挑んだ人体表現を顧み、その器に込められた魂を探ります。人形では平田郷陽、与勇輝、伽井丹彌、齊藤利明など時に温かく、時に妖しさを放つ魅力溢れる作品を紹介します。

立体造形ならではの理屈なく、直感的に心に訴えかけてくる力——そんな立体物が有するパワーをぜひ堪能ください。

私たちのとなりには、家族や友人、あるいはまったく見知らぬ人がいます。すぐそばにいても互いに理解し合えないこともあります。すぐそばにいてもいてともとなりにいるような親しさを感じることもあります。人ととの心的な距離は、物理的な距離とは関係なく、近づいたり、離れたりしています。近年のソーシャルメディアの発達によって、その距離はますます盛んに伸び縮みしているのではないでしょうか。

本展では、「となりのひと」をテーマに、本郷新の作品と合わせ、札幌および近郊の作家によ

る「他者との距離」や「他者へのまなざし」についての作品を紹介します。彫刻、絵画、映像、インスタレーションなど多彩な表現を通じて、私たちにとっての「となりのひと」にあらためて思いを馳せる展覧会です。

出品作家・小林麻美(絵画)、鴻上宏子(彫刻)、佐竹真紀(映像)、冨田哲司(インスタレーション)、野又圭司(インスタレーション)、村山由布(彫刻)

MUSEUM CALENDAR

2012.4~2012.10

美術館の特別展覧会ご案内

	4	5	6	7	8	9	10	
近代美術館	4/7~5/6 阿部典英のすべて ~工作少年、 イメージの深海をゆく~		5/19~7/8 大原美術館展		7/20~9/9 東山魁夷展		9/15~11/11 藤田嗣治と愛書都市パリ ー花ひらく挿絵本の世紀ー	
美三岸好太郎館		4/1~6/26 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第1期 三岸好太郎と札幌		6/30~9/2 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第2期 貝のまほろし		9/8~10/21 特別展 <猫>が気になる 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第3期 三岸ファンタジー		
旭川美術館		4/17~5/27 開館30周年記念 芹沢鉢介展	6/5~6/27 開館30周年記念 椅子と絵の対話 IFDA入賞作品X 旭川美術館コレクション		7/4~8/26 開館30周年記念 旭川市民実行委員会・美連協 佐藤忠良展		9/4~11/7 開館30周年記念 ヴィクトリアン・ジュエリー展 実行委員会:道新	
函館美術館		4/7~5/24 鷗亭の眼・鷗亭のこころ 書と陶と画と ~書き合う美の世界(仮称)		6/2~7/16 人間国宝 芹沢鉢介展(仮称)		7/25~9/2 ムーミンと仲間たち ~作家トーベ・ヤンソンからの おくりもの~(仮称)		9/15~11/7 棟方志功展(仮称)
帯広美術館	4/11 プリントアートの魅力		4/20~6/20 画家の素顔 パラレット&絵画		6/29~8/29 棟方志功展		9/7~11/7 オブ・アート展	
釧路芸術館			4/13~6/27 チカッピ美恵子の世界		7/7~9/5 岩合徳光・岩合光昭 写真展		9/14~11/23 クールベ展	
美札幌藝術の森		~5/27 フレデリック・バッック展 木を植えた男	6/2~7/8 立体力 仏像から人形、 フィギュアまで		7/14~9/2 ユーモアのすすめ 福田繁雄大回顧展	9/8~9/23 交差する 視点と かたち	9/29~11/4 札幌美術展 パラレルワールド 冒険譚(仮)	
札幌彫刻新記念館	~5/13 コレクション展 手が語る -彫刻における手の表現-	5/16~5/27 (貸館) 鈴木吾郎 彫刻 50年展		6/2~8/26 となりのひと	8/29~9/2 (貸館) 市民 彫刻 コレク ション (仮)		9/22~11/11 彫刻家たちのルーツ(仮)	

北海道立近代美術館からお知らせ

改修工事終了について

9月12日から全面休館して、ボイラー交換や吊り天井の耐震工事、外壁工事などの改修工事がおこなわれていましたが、3月に全て終了しました。

これに先立ち、公開スペースおよび売店については、2月3日から再開しております。大変ご不便をおかけしましたが会員証の発行も従前どおりおこなっていますので、ぜひご利用願います。

北海道立近代美術館特別企画

「あなたが選ぶこの1点 もうひとつの… コレクションへの招待－名品ベスト10」

キンビのコレクションの中で、あなたにとっての“名品”は、どれですか？

展示室内の特別ブースにある、専用の用紙に作品名と選んだ理由をご記入のうえ、名品ポストに投函ください。みなさまから寄せいただいた“名品”を編集し、「もうひとつの…コレクションへの招待－名品ベスト10」を特別コーナーで紹介します。月末に集計し、結果を展示に反映します。

追悼

武井正直 前会長



動となりました。

昭和63年9月に、募金を

含む収益金で購入した絵画二点を、北海道近代美術館開設10周年を記念して道に寄贈。

絵はエコール・ド・パリの華といわれているフランスの女性画家マリー・ローランサンの円熟期の秀作で、油彩の『三

人の娘』(1934年作・12号)と、水彩の『犬と三人の乙女』(1940年頃の作・5号)。

現在、近代美術館に収納され

ており、多くの美術愛好者を魅了しています。

会長は名画を贈る運動が、実を結んだことを大変喜んで

ます。

会長退任の際、会報アルテピアに、ご挨拶を寄せておられます。協力会、そしてボランティア活動に対する熱い思いが伝わってきます。

今一度、再掲して武井氏を偲びたいと思います。

鶴の一聲

協力会の総会で、出席者から

「近畿のトイレは居心地が悪い」との発言があつた。武井さん「解った、館に申し入れよう。程なく館から通知が来た。「直ちに改修します。」

◆涙 平成19年5月の総会。退任される武井さんに、感謝状が贈呈された。この時

武井さんは挨拶の途中、声を詰まらせ、涙を拭かれた。武井さんの、協力会に全力を打ち込んでいた姿が、直球で伝わった場面であった。

おられました。

北海道経済界のリーダーと

して激務のなか、総会、理事

会には率先して出席され、毎

年開催される会員の交流会

「つどい」では、楽しそうに杯を重ね、歓談していたのが、つい昨日のように思いだされます。

銀が北洋銀行に営業譲渡」の大ニュース。何と、協力会イベントの舞台裏で歴史的な出来事が、ホール横の公衆電話を使って繰り広げられていました。後に武井さんは、「テレカを4千円位使ったかな。」と話されていました。

改めて、会員、理事、とりわけボランティア活動に情熱を燃やし続ける皆様に、心より感謝申しあげます。

そして、協力会の益々の発展をお祈りいたします。アルテピアは永遠です。有難うございました。

◆舞台裏 平成9年11月、武井さんのエピソード

舞台裏

平成9年11月、

協力会20周年記念の講演会が道新ホールで開かれた。

控室で講師の渡辺淳一さんと武井さん以下スタッフの打ち合わせが行われていた。

その合間に武井さんは時々席を外される。翌日、「拓

ピアに、ご挨拶を寄せておら

れます。協力会、そしてボラ

ンティア活動に対する熱い思

いが伝わってきます。

改めて、会員、理事、とりわけ

ボランティア活動に情熱を燃やし続ける皆様に、心より感謝申しあげます。

そして、協力会の益々の発展

をお祈りいたします。アルテピアは永遠です。有難うございました。

改めて、会員、理事、とりわけ

ボランティア活動に情熱を燃やし続ける皆様に、心より感謝申しあげます。

そして、どんなに整備された文化施設でも、これが「心の豊かさ」を求める来訪者と、地域

退任のご挨拶

皆さん、大変お世話になりました。

昭和61年、当時の田上吉也会長から引き継ぎ、20年間会長職を務めさせて頂きました。

感慨一入のものがあります。10周年を記念する「名画を贈る運動」も心に残ります。

特に、就任早々の昭和61年12月には、協力会創立10周年の特別事業として「北海道に名画を贈る道民の会」を立ち上げ、約1年半にわたり街頭募金、各種チャリティなど、様々な募金活動を全道展開。全国的にも先例のない運

迎え、平成17年6月には800万人目の入場者を迎えたことも忘れられません。

総会或いは理事会で、会員、理事、ボランティア各部の皆様と口角泡を飛ばして議論したのも、貴重な経験でした。

今、世界では局地的なテロが収まるところなく、悲劇は繰り返されています。経済の世界も、なつてているのです。

数値を追求するだけの弱肉強食の闘いが目立ちすぎます。

私たちの日常生活の周りでも

信じられないような事件、事故が起き、教育の根本も問われています。このような時こそ「美」を楽しみ、心の豊かさを求めることが、益々必要となつて参ります。

もともと美術館は、国、地方自治体、或いは大企業の基盤がなければ存立しません。しかし今はその基盤が甚だ脆い時代になっています。

そして、どんなに整備された文化施設でも、これが「心の豊

武井さんを
偲ぶ



北海道美術館協力会会長
吉野次郎

武井正直前会長が去る2月3日にご逝去され、長年ご指導を頂き、また大変お世話をなつた身として悲しみに耐えません。

武井さんはご承知の様に道内経済界の偉大なリーダーでありました。97年の拓銀破綻により北海道が真っ暗になつた困難の時に、北海道の安定に向け果たされたご功績は夜空に燐然と輝く星とも言えましょう。

私が札幌銀行で頭取となつてからは、同業と言うこともあり特に親しくさせて頂きました。と言つても、年が18歳も違いますし、また経験や能力は比べようもない程違いました。恐らく武井さんは私を小学生の様にみ立てて、可愛がつてくれたのではないかと思つています。

さて、この協力会に関して



2000年度 総会にて

追悼の言葉

前専務理事
浦田 久

武井さんは平成19年の5月迄20年余りに亘って会長をつとめられました。経済以外の分野でも何でも知つておられ、またご自身で絵を書かれたり、美術館巡りがお好きだつたと聞いております。意外感はなかつたのですが、仕事関連を除いてひとつ役職をこんなに長く勤められることはなかつたので、余程この協力会に愛着をお持ちだったのだ

と思います。退任された最後の協力会総会でのご挨拶、武井さんのあれほど感極まつたお話をされた場面に接したのは、最初で最後でした。私は本当に驚き感動しました。

武井さんの愛した美術館協力会、後を續ぐ私達、武井前会長の想いを噛み締め北海道の美術界の発展にお役に立つて行かなければならぬと思ひます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

A portrait of a man with glasses and a suit, holding a microphone and a small white object, likely giving a speech at a podium.

この難かしい時期に武井会長は私達に対し、適切にして最良のご判断を指示されましたことを、今でも感謝をこめて思い出しております。武井会長が拓かれた道は、現在も吉

野会長を始め、多くの優れた役員によつて引き継がれ、困されていることはまことに嬉しい限りであります。こうして武井会長が本道の経済発展のみならず、芸術文化の振興について巨きなご功績を遺されたことに対し、心からの感謝と尊敬を覚えるところであります。武井正直様、本当に有難うございました。



2001年度 「つどい」にて

何れも、漱石の「草枕」を引用され、「厳しい時代こそ、心豊かにするために、美術館活動を皆で盛り上げよう」と説かれていたのです。

総会、理事会でも、「今の時代、心が安らぐのは美術館である」として協力会の使命を強調されていました。

ご多忙で重責を担われた会長の、真のお気持ち、と今かみしめて いるところでござい

第53回学生美術全道展

平成23年10月8日～11日

市民ギャラリー

今年度の大学生、高校生らを対象とした学生美術全道展の審査がおこなわれ、最高賞の全道美術協会賞・道美術館協力会賞に輝いたのは、札幌大谷大短期大学部専攻科美術専攻1年の梅木美呂さんの絵画『還元』。絵画、版画、彫刻、工芸の4部門の応募作品363点（入賞、入選296点）の中から選ばれた。

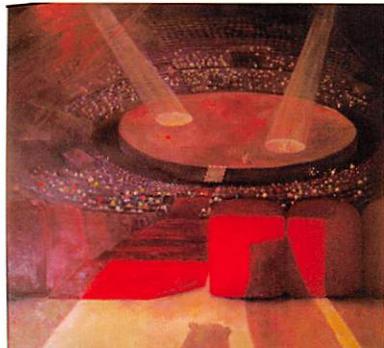


札幌大谷大短期大学部専攻科美術専攻1年
梅木さん

第5回道展U21
平成24年2月9日～12日

受賞作品は段ボールや木材、切手など身近な素材を貼り付けた、大胆で巧みな構図の黄色と黒を基調としたコラージュ。梅木さんは受賞式のスピーチで「受賞は信じられない。これからも悩むことを大切にして、作品に真剣に取り組んでいくたい」と抱負を述べた。

15歳から21歳の道内学生などを対象とする美術公募展、「第5回道展U21」（北海道美術協会主催）は、2月7日に平面、立体合わせて入選、入賞作品767点を選び、大賞ほか各賞、優秀賞を決定した。当協力会は後援団体として優秀作品一点に賞品の盾を贈呈しており、今年度の『北海道美術館協力会賞』には、札幌稻雲高校の安田千皓さんの油彩画『Ct』が選ばれた。



道美術館協力会賞 受賞作品
『Ct』
安田 千皓(札幌稻雲高校)



全道美術協会賞・道美術館協力会賞
受賞作品『還元』
梅木 美呂(札幌大谷大短期大学部専攻科美術専攻1年)

新会員紹介

2011年8月～2012年2月(敬称略)

ご入会ありがとうございました

8月
札幌市 一 杉 明 子
〃 丸 山 晃 市
旭川市 大須賀 順 子

9月
札幌市 岡 孝 恵
旭川市 工 藤 哲 靖

11月
札幌市 佐 藤 暢 子

1月
札幌市 棚 川 伊知郎
〃 鶩 頭 隆

2月
札幌市 近 山 藤 光 雄
〃 七 条 藤 内 理香子
〃 佐 吉 野 藤 郁 郁 子
〃 池 田 藤 和 美
惠庭市 佐 藤 厚 子
佐 藤 ひろ子
佐 藤 芳 正

札幌市 久 保 明 子
〃 大 篠 篤
和 竹 根
春 篠

お便り大募集!

「アルテピア・サロン」は、会員の皆様と協力会との架け橋、情報交換の場です。皆様からの投稿をお待ちしております。美術館や展覧会のこと、好きな作家や作品、感激したこと、楽しかったこと、うれしかったこと……、各地域での催しや、あまり知られていない個人美術館の紹介、趣味、本誌の感想なども、お気軽にお寄せください。

投稿規定

500字以内を目安として、手書き、ワープロどちらでも。用紙は自由、葉書も可。お名前、連絡先を記載のうえ、郵送またはファックスにて下記まで。
(連絡先は掲載しません。掲載分には薄謝贈呈)

あて先

〒060-0002 札幌市中央区北2条西17丁目
北海道美術館協力会 事務局「会員の広場」
ファックス: 011-644-4025

今年度の「移動美術館」活動

「“お宝” 眠らせぬ：鑑賞の場お届け」（北海道新聞 平成23年12月9日夕刊文化欄）の中でも紹介されているが、長期休館した今年度の「移動美術館」は、別海、西興部、福島、室蘭、真狩の5市町村で開催された（例年は2箇所）。作品は片岡球子の日本画や中原悌二郎の彫刻など約40点。美術講座も開催され各地で好評であった。

札幌南高生によるコンサート・作品展の開催～三岸好太郎美術館にて



12月10日、館内ロビーにて三岸好太郎の後輩・札幌南高等学校の音楽履修生による、コンサートが開かれた。クリスマス・メドレーでオーブニング、素敵な演奏で館内は和やかな雰囲気につつまれた。

また、芸術科目履修生が先輩・好太郎の晩年の代表作「飛ぶ蝶」などをモチーフにして創作した水彩画やデザイン画、蝶にちなんだ童謡や句をしたためた書など19点が展示された。

*三岸好太郎は1921年（大正10年）に札幌一中（現・札南高）を卒業。



編集だより

会員の皆様、如何お過ごしですか？今年の冬は、このほか寒さが厳しく、春の到来を待ちわびました。美術館の北側の敷地沿いの、ナナカマドの街路樹。今は生命を競う芽吹きの時を迎えたが、冬のひとこまをここでご紹介。ある晴れた日。こんもりと雪の帽子をかぶったナナカマドの赤い実が青空に映えて美しい。転じて足元には、除雪で削られたばかりの歩道の雪の断面に、赤い水玉が散りばめられていて、思わずハッ。地面に落ちた実が、地層の化石のように埋め込まれていた。（A）

2月3日前会長武井正直さんがご逝去されましたので、急ぎよ、追悼記事を組みました。心からご冥福をお祈り致します。

第30回 海外美術研修旅行

9月6日～9月11日

韓国の美術館・博物館と世界遺産を訪ねて（釜山、慶州、丹陽、ソウル）



釜山市立美術館からスタート！



国宝「金堂薬師立像」
国立慶州博物館
顔は穏やかで気品に満ちている等身大的立像



世界遺産「昌徳寺」
(ソウル)
朝鮮王朝5大宮の一つ正宮「景福宮」の離宮として創建

アルテピアニュース

改装オープニング記念セール

道立近代美術館のリニューアルオープンに合わせ、「改装オープニング記念セール」が、2月3日に同館売店で行われ、来館者の人気を呼んだ。

「本日限りSALE」と書かれた特設売り場には、近美オリジナルグッズ・藤田嗣治グッズ、図録・書籍、ミュージアム新書など50品目以上が並べられた。他にはないお値打ちの品々が特別価格で手に入るとあって、店内は、9時半の開店早々から賑わっていた。

ひとくちメモ

「大原美術館」

新緑のころ、5月の近美は北海道初上陸の「大原美術館展」です。個人美術館の元祖のような大原美術館は、日本で最初の西洋美術館として、1930年岡山県倉敷市に大原孫三郎（社会事業家・倉敷絹織クラレ創業者）によって設立。

当時、大原家はこの土地の大地主で、紡績、その他の事業を幅広く営んでいました。孫三郎は、社会貢献の一環という認識のもと、洋画家児嶋虎次郎に収集を託し、西洋美術を中心にエジプト・中近東・中国美術のコレクションを展示しました。ニューヨーク近代美術館の開館が1929年であることを考えると孫三郎の先見性は特筆すべきことと言えます。

今回初めて海峡を渡る作品は80点。薰風に誘われて名品の数々をご覧になるのもまた一興です。（M）